

ZEPHYROS

ゼフェロス No.23

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ペータ・ヘーゼ
《集光鏡》裏 1740年頃 真鍮、木
Photo©Michael Lange

ドレスデン国立美術館展-世界の鏡

会期: 2005年6月28日(火)~9月19日(月・祝)

主催:国立西洋美術館/日本経済新聞社

この展覧会は、ドレスデンに居城を定めたザクセン選帝侯のコレクションを7つのセクションで見られるものです。ドレスデンでは異国文化が愛され、様々な外国の美術が集められました。中でも、イタリア、フランス、オランダ、そしてトルコ、中国、日本の6つの国が重要でした。セクション1では、そうした異国文化の影響を見る前に、ドレスデンのコレクションの始まりが、美術作品ではなく科学計測機器であったことを概観します。16世紀後半に宮廷に設けられた「美術収集室」では、歴代のザクセン選帝侯が愛した地球儀や天球儀、製図用具など、実際に使用された道具類が棚に並べられていました。

セクション2では、オスマン・トルコの美術とヨーロッパにおけるその影響を見ます。オスマン帝国は、ヨーロッパにとって迫り来る脅威でしたが、同時に、高い文化を誇る憧れでもありました。アウグスト強王の時代、ザクセン宮廷ではトルコ風の祝祭が執り行われるほどでした。

ドレスデン国立美術館展-世界の鏡

セクション3は、芸術の先進国イタリアです。ザクセン宮廷では特に、ヴェネツィアの風景画が多く購入されましたが、ドレスデンの風景画が望まれるとなると、カナレットの甥のベロツトがドレスデンに招かれ、ヴェドゥータという流行の風景画様式でドレスデンの景観が多数描かれ居城を飾るようになります。

セクション4は、フランスの宮廷文化に焦点が合わせられています。アウグスト強王は、青年時代、ヨーロッパ見聞旅行に出ますが、太陽王ルイ14世のヴェルサイユ宮殿に数ヶ月滞在し、華麗な宮廷文化に衝撃を受けました。ドレスデンの居城をフランス風に改装すべく、祝祭や儀式、ファッションから家具に至るまであらゆることをフランス風に整えました。

セクション5は、中国と日本の工芸です。アウグスト強王は東洋の磁器に魅了され、薬剤師ベトガーに白磁の製作を命じました。東洋の磁器を集光鏡で溶かし成分を分析することで、ベトガーはヨーロッパ初の磁器製作に成功します。マイセン磁器は、ヨーロッパの宮廷の憧れの的となり、ザクセンの贈り物外交で絶大な効果を発揮しました。中国や日本の磁器が、その絵付けの手本であったことは言うまでもありませんが、後には独自の装飾も展開します。

セクション6では、オランダ絵画の巨匠レンブラントがドレスデンに及ぼした影響を見ます。ドレスデンのレンブラント・コレクションに基づいて、18世紀には、美術アカデミーの校長ディートリヒを中心に「レンブラント主義」とも呼べるレンブラント・ブームが興りました。

最後のセクション7は、ドイツ・ロマン主義の中心地としてのドレスデンです。ここまで見てきたように豊かな美術コレクションで有名なドレスデンに、19世紀の若い芸術家たちや作家たちが集まってきました。ドレスデンは文化と芸術でドイツを代表する町となったのです。一般公開されていたギャラリーは、ゲータも訪れその興奮を書き記したことで有名ですが、若い美術家たちもそのコレクションから強い刺激を受けます。とりわけ、ゲータが称賛したことで、オランダの風景画家ロイスダールはロマン派のアイコンとなります。その自然主義的な風景描写を手本としながら、ロマン主義に特徴的な「季節や時間の感覚」を織り込んだ叙情的な作品が生み出されたのでした。なかでもフリードリヒは、ドイツ近代美術を代表する作家として知られています。また、ダールが描いた《満月のドレスデン》には、イタリアのヴェドゥータの様式とオランダの写実的な描写の融合を見ることができるでしょう。この一点に、ドレスデンのコレクションの特徴が映し出されていると言っても過言ではありません。長い時代にわたって国際的な文化を万華鏡のように映し出してきたドレスデンという鏡が、世界に向かって送り返した光はロマン主義の美術として私たちの前に像を結んだのです。

(主任研究官 佐藤直樹)



ヨハン・クリスティアン・クラウゼン・ダール
《満月のドレスデン》
油彩/カンヴァス 1839年
Photo©Jürgen Karpinski

©Staatliche Kunstsammlungen Dresden

- ◆「ドレスデン国立美術館展」観覧料
- | | |
|-----|-----------------|
| 一般 | 1,400円 (1,000円) |
| 大学生 | 1,000円 (560円) |
| 高校生 | 800円 (450円) |
- ※ () 内は20名以上の団体割引料金
中学生以下…… 無 料

いろいろメガネPart1ー あなたの見かた教えてください

the national museum of western art, tokyo

誰かと一緒に美術館を訪れることで、自分とは異なる作品の見かたや楽しみかたを経験したことはありませんか。十人十色と言うように、同じ作品を見ても、その作品から受ける印象や思うところは人それぞれに異なります。人は誰も自分の経験や感情を基にして作品を見ているからです。言葉を替えば、人はみな自分の「色眼鏡」を通して作品を見ている、と言うことができるかもしれません。

今年のFun with Collection (ファン・ウィズ・コレクション)は、そうした人それぞれの作品の見かた、楽しみかたをテーマにしました。つまり、本企画の主役は、国立西洋美術館の常設展に来館される皆さんです。そこで、各々の作品の見かた、楽しみかたを、「メガネ」というキーワードで表現します。今回は、自分の「メガネ」を通して見た自由な鑑賞体験を自分の中だけで終わらせるのではなく、人と「メガネ」を交換することで自分とは異なる作品の見かた、感じかたを体験してみましょう。そうすることによって、同じ作品の中にそれまでとは違う何かが見えてくるかもしれません。

この企画は、2005年と2006年の2年間にわたって実施します。2005年は“いろいろメガネ Part 1ーあなたの見かた教えてください”、2006年は“いろいろメガネ Part 2ーみんなの見かた紹介します”となります。当館のコレクションを使ってそれぞれの「メガネ」について考えたり、お互いの「メガネ」を交換したり、様々なプログラムを実施します。例えば、当館の常設展の作品を皆さんがどのように見ているのか、何を感じているのかについてエッセイを募集します。また、各分野の専門家による、その人ならではの美術の楽しみかたを紹介するレクチャーも行います。(詳細は「いろいろメガネPart1ーあなたの見かた教えてください」のチラシをご参照ください)。皆さんの「メガネ」を美術館に貸してください。どんな新しい景色が見えてくるのでしょうか。

(主任研究官 寺島洋子)



カルロ・ドルチ
《悲しみの聖母》
(聖母として描かれた画家の妻テレザ・ブケレリ)
1650年頃 油彩/カンヴァス

◆ミュージアムショップの絵ハガキ売り上げベスト3に入る人気の作品です。皆さんは、この絵を見てどのようなことが心に思い浮かびますか。

2004年度新収作品

the national museum of western art, tokyo

20世紀の初頭、フォーヴ(野獣派)に続く絵画の革新的な運動として登場したのがキュビズムでした。その新しい表現を創始したのはパブロ・ピカソとジョルジュ・ブラックのふたりでしたが、それは瞬く間に若い画家たちの心を捉えます。そして彼ら若い画家たちが、キュビズムをひとつの運動へと高めていきました。当時のフランスでは、新たな美術が人々に展覧される場はサロン・デ・ザンデパンダンやサロン・ドートヌとといった年1回開催される大規模な公募展でした。しかしピカソやブラックの作品はこれらのサロンには出品されなかったため、当時の人々にキュビズム絵画として認知されていたのは、むしろキュビズムの運動を牽引した若い世代の芸術家たちによる作品でした。なかでも最も代表的な画家のひとりがアルベール・グレーズ(1881年-1953年)です。

1912年に、彼はジャン・メッツァンジェ、マルセル・デュシャン、ホアン・グリス、フェルナン・レジェといった仲間の画家たちと、キュビズム作品を一堂に集めた展覧会「セクション・ドール(黄金分割)」展をパリの画廊で開催します。そこには32人の画家による200点以上の作品が出品され、とりわけ中心的な位置を占めたのがグレーズの《収穫物の脱穀》でした。複雑に入り組んだ幾何学的図形によって構成された典型的なキュビズムの画面で、一見何が描かれているのか見分けがたいかもしれませんが、収穫した小麦を脱穀している人々の姿が描かれています。伝統的な主題を革新的な表現で新たにやり直していくこと。これがキュビズムの大きな特徴のひとつですが、その意味でこの作品は典型的なキュビズムを示す非常に重要な作品と言えます。

(主任研究官 田中正之)



アルベール・グレーズ
《収穫物の脱穀》
1912年
油彩、カンヴァス、269 cm x 353 cm

©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2005

「ドレスデン国立美術館展－世界の鏡」に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆講演会

- ① 7月3日(日) 14:00～15:30 **6月19日申込締切**
「ピルニッツ城保管の日本製輸出漆器」
加藤寛(東京国立文化財研究所修復技術部長)
- ② 7月24日(日) 14:00～15:30 **7月10日申込締切**
「ヨーロッパにとってのトルコ－歴史的文脈から－」
新井政美(東京外国語大学教授)
- ③ 8月14日(日) 14:00～15:30 **7月31日申込締切**
「ヨーロッパ近世科学機器と日本・中国への伝播」
中村士(ツコウ)(国立天文台助教授)
- ④ 9月11日(日) 14:00～15:30 **8月28日申込締切**
「ドレスデン－世界の鏡：展覧会のコンセプト」
佐藤直樹(国立西洋美術館主任研究官)

会場	国立西洋美術館講堂
定員	145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)

◆スライドトーク

展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日に解説を行います。

7月8日(金)、22日(金)、8月5日(金)、19日(金)、9月2日(金)、16日(金)
毎回18:00～(約40分)

解説	落合桃子(早稲田大学大学院博士課程)
会場	国立西洋美術館講堂
定員	先着145名(展覧会観覧券が必要です。) *直接講堂にお越しください。

◆レクチャー・コンサート **8月26日申込締切**

「オスマン・トルコへの恐怖と憧憬－帝国拡張がもたらした音楽文化の多様性」

日 時：9月9日(金) 18:00～19:30 (17:30開場)
企画・トーク：瀧井敬子(東京芸術大学演奏芸術センター助手)
特別ゲスト：斉藤完(トルコ音楽研究家)
演奏：東京芸術大学有志、ベリーダンス＝サズ FUJI、他
場所：展覧会会場ロビー(地下2階)
定員：100名(無料。ただし展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)

講演会・コンサート応募方法

応募方法	往復はがきに、希望日(はがき1枚につき1希望日)、氏名(1名様限り)、住所(返信にも)、電話番号をご記入の上、それぞれ下記の宛先にお申し込みください(締切日の消印有効)。 ※応募者多数の場合は抽選になります。
宛先	〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館「ドレスデン展」講演会係 または、 国立西洋美術館「ドレスデン展」コンサート係

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2005年5月～2005年10月

常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

休館日
土日・祝日

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

5

MAY

● ジョルジュ・ドラトゥール 光と闇の世界
(企画展示室) 最終日5月29日(日)

● マックス・クリンガー 版画展:《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》
(新館2F版画素描室) 最終日5月29日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

6

JUNE

● ドレスデン国立美術館展—世界の鏡
(企画展示室) 6月28日(火)～9月19日(月・祝)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

7

JULY

● ドレスデン国立美術館展—世界の鏡
(企画展示室) 6月28日(火)～9月19日(月・祝)



● Fun with Collection 2005“いろいろメガネ Part1” (常設展示室)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8

AUGUST

● ドレスデン国立美術館展—世界の鏡
(企画展示室) 6月28日(火)～9月19日(月・祝)

● Fun with Collection 2005“いろいろメガネ Part1” (常設展示室)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

9

SEPTEMBER

● ドレスデン国立美術館展—世界の鏡
(企画展示室) 最終日9月19日(月・祝)



● Fun with Collection 2005“いろいろメガネ Part1” (常設展示室)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

10

OCTOBER

● キアロスケーロールネサンスとバロックの多色木版画
パリ、フリッツ・ルクト・コレクションの所蔵作品による
(企画展示室) 10月8日(土)～12月11日(日)

● 版画・素描作品展(秋) (新館2F版画素描室) 10月8日(土)～
12月11日(日) (予定)

● Fun with Collection 2005“いろいろメガネ Part1” (常設展示室)

※ 展示名、会期、内容等は変更されることがあります。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
通常…午前9時30分～午後5時30分(ただし、秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中＝午前9時30分～午後5時)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※ 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS 第23号

編集・発行 国立西洋美術館/平成17年5月20日(年4回発行)
協力(財) 西洋美術振興財団
印刷(株) アイネット